

第1回瑞穂町協働のまちづくり推進委員会

- 1 日 時 平成30年4月26日（木曜日） 18時30分から20時00分
- 2 場 所 本庁舎 1階会議室
- 3 出席者 （委員）
石川かず子、井上祐輔、香取幸子、小松揚明、田中幸男、中沢清、豆田和子（事務局）
古川実（住民部地域課長）、栗原康弘（住民部地域課地域係長）、堂垣祐介（住民部地域課地域係主任）
（欠席者）
小山裕紀子
- 4 議 題
 - 1 協働フォーラム2018の報告について
 - 2 平成30年度協働のまちづくり推進委員会について
 - 3 協働事業ガイドラインについて
 - 4 その他
- 5 配布資料
 - 1 次第
 - 2 協働フォーラム2018の報告書について
 - 3 平成30年度スケジュール（案）
 - 4 協働事業ガイドラインについて
 - 5 平成29年度第2回会議録抜粋
- 6 開会
香取委員長
- 7 あいさつ
古川地域課長
- 8 議題1 協働フォーラム2018の報告について
事務局説明
 - ・協働フォーラム2018のアンケート結果報告

フォーラムの感想や改善点について

・フォーラムの事前周知の工夫が必要。チラシを配布するだけでなく、地域の核となる団体（町内会連合会や体育協会などの役場の関係団体など）に説明を行い、他の人を引っ張ってもらえるようお願いに行く。不特定多数に向けて周知するだけでなく、ある程度地域の中心になるような方をピックアップして、説明に伺う。（香取委員長）

・けやき館で行ったことは出前講座みたいな感じで良かった。まちづくりに興味がある方の参加も大事だけれど、それ以外の方の参加も重要だと考えています。視野を広くして、様々な方に少しでも興味を持たせることがフォーラムの目的のひとつであると思っています。ブースが裏のほうで死角になっていて、人があまり来なかったのと、入り口付近でけやき館の案内人が待ち構えていたのは少し威圧感があったのではないかと感じたので、次回また、けやき館で行う場合は調整が必要だと思いました。（田中）

・他のイベントとタイアップすることで、フォーラム目当てではない人も協働に興味を持ってくれることは良かった。

今後協働をさらに周知するためには、自分たちから出向くほうがいいのかと思いました。フォーラムを開いてお客さんを呼び込むのではなく、他の会議や委員会で協働の説明をしたり、チラシを配布したりすることで、違った結果になるのではないかとと思いました。

フォーラム当日はつるし雛を見に来たお客さんに話しかけて、協働の説明をすることで興味を持ってくれたりしたので、年間通してやることで効果があるのかなと思いました。（小松）

・発表はとてもわかりやすく、具体的な活動発表をしたほうが協働を理解しやすかった。残念なことは、ブースが裏になってしまったので、多くの方に紹介できなかったことです。

（石川）

・10時からオープンで10時30分からフォーラム開始だと、ひな祭りを見に来た人にとっては厳しいスケジュールだったのかなと思いました。あとは、ひな祭りを目的に来た人に、いきなり協働を見てというのは難しかったのかなと思いました。（豆田）

・1, 2か月前の周知では難しく、例えば町民が多く集まる産業まつりなどで看板を出しておくだけでも、PRになるのかなと思いました。

瑞穂町だと協働事例が少ないので、他自治体（国分寺や国立など）の人を呼んでもいいのかと思いました。初めてのフォーラムでしたので、色々勉強になりました。（井上）

・会場が変わった中で短い期間でうまくまとめたと思っています。自分のブースは比較的、人が来る場所で、見やすいところでした。つまり、視線が行くところは見ますが、奥の会議室だと難しい部分もあって、次回やる時には、図書スペースにブースを展開して、そこから動線を作っていけば、廊下をとおして、調理室に行く流れができるのかなと思いました。町民会館の時とは違って、不特定多数の人が来る場合は、協働を取り上げるよりも、単純に活動事例を並べたほうが人は興味を持つのかなと思いました。ある意味、協働という言葉に引かからなくても瑞穂はボランティアが盛んだと思わせることで、協働につながるというように考えてもいいのではと思いました。

チラシよりも小さいポストカードのようなものを手渡しできるようにするといいのかなと思いました。（中沢副委員長）

・つるし雛と合同でフォーラムを行わせてほしいとお願いしたこともあり、ブース展開が難しかった。事例発表については、続けるべきだと思う。なぜなら、次にまた来てくれた人がどうなっているか進捗状況に興味を持ってくれると思うので、継続しつつ新たな事業の発表もできたらいいのではないかと考えている。（事務局）

・周知の仕方に工夫をしなければならない。チラシを配布するだけでなく、積極的に周知

する方法を考えたい。(事務局)

議題2 平成30年度協働のまちづくり推進委員会について

事務局説明

- ・平成30年度スケジュール(案)の提示
- ・フォーラムの方針について
- ・事務局としては、フォーラムを継続して行っていきたい考えであり、講師は今後探していくとしても、活動発表は続けていくべきだと思っています。

平成30年度推進委員会について

- ・年間全6回の会議日程は決まらず、第2回は6月27日、第3回は8月22日を予定
- ・作業部会を5月24日に開催
- ・次回会議で第4回会議開催日を決める
- ・フォーラムをやらないと協働を周知する良い方法がないので、引き続き行う予定。
- ・産業まつりなどのイベントで周知するために早くから予定をたてる必要がある。
- ・職員研修で活動発表を行うのはどうか。実際の活動を聞いたほうが協働を理解しやすい。
- ・事務局で協働をPRできるようなイベントをいくつかピックアップしていただきたい。
- ・フォーラムの基調講演の講師は事務局で探していきます。

議題3 協働事業ガイドラインについて

事務局説明

- ・平成29年度第2回会議でワークショップを行い、ガイドライン目次について協議しました。その協議結果をまとめ、修正したものを提示しましたので、委員さんから意見をいただきたい。
- ・協働を進めるためのフローチャートなど、協働ガイドラインの核となる部分は委員と協議しながら進めていきたい。また、その他の部分(協働の定義やメリットなど)については事務局がある程度たたき台を作成するので、それに対して意見をいただきながら進める。

議題4 その他

各委員からの協働事業報告

長岡平地林(中沢副委員長)

- ・先日、中沢副委員長と事務局で地権者に挨拶に行き、引き続き活動していく許可をいただきました。長谷部園芸さんにもご協力いただき、駐車場を貸していただけることになりました。
- ・活動は毎月第二火曜日、そして奇数月の第三日曜日にやっています。駐車場に午前9時に集合して、作業はお昼ごろに終わります。
- ・5月20日には作業というよりか、自然観察会や食事会を開催しますので、ご都合が良い

方にご連絡いただければと思います。次回は秋にも開催する予定です。

横田・瑞穂友好バスケットボールフェスティバル（小松委員）

- ・4月14日に横田基地の方とのバスケットボールのイベントを開催しました。このイベントは協働フォーラムの時に横田交流協会の人と横田基地の大佐とたまたま知り合いまして、それをきっかけに話が進んでいきました。
- ・主催が瑞穂町バスケットボール連盟、後援が瑞穂町体育協会、協力が瑞穂横田交流協会、地域課は役場の調整窓口になっていただいて、協働シートも提出したことで協働事業として進めました。地域課が企画課、秘書広報課、教育委員会などと調整したことにより、期間がない中でスムーズに準備ができ、協働をうまく活用できました。

ひまわり畑（井上委員）

- ・チラシは瑞穂町のデザイナーに作成していただき、その経費は東京都から年1回の農業関係の補助金で対応しています。
- ・今年も役場と農協の青壮年部の協賛で行い、回廊計画の一部としてひまわり畑を整備します。イベントは年4回で、年間通して2500円の参加費となり、イベントの日によっては、別途食事代がかかる場合もあります。イベント最終日にはひまわりオイルを1本お渡しします。

サンサン広場（香取委員長）

- ・去年の9月から高齢者、乳幼児とその母親を対象としたサロンを立ち上げ、月1回活動しています。ボランティアセンターみずほと連携しながら、人に披露できる芸をお持ちの方を招いて、披露していただいています。例えば、フラダンスや演奏などで、もし周りに何か特技や芸を持っている方がいれば教えていただきたいと思います。

ヒッポファミリークラブ（豆田委員）

- ・教育委員会後援の親子で参加できるワークショップに関するチラシの配布。